

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和3年度)

2021年10月21日

MIRATZ駒込保育園 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

評価機関名 有限会社 エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	小規模保育事業A型		
調査対象事業所名称	MIRATZ駒込保育園		
事業所連絡先	郵便番号	114-0015	
	所在地	東京都北区中里2-3-5-1F	
	電話番号	03-6903-6573	
契約日	2021年	4月	22日
利用者調査票配付日(実施日)	2021年	6月	1日
利用者調査結果報告日	2021年	8月	23日
自己評価の調査票配付日	2021年	6月	1日
自己評価結果報告日	2021年	8月	23日
訪問調査日	2021年	8月	30日
結果合議日	2021年	9月	13日
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2021年10月21日

事業者代表者氏名 MIRATZ駒込保育園 園長



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子どもを育む
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>小規模保育園ならではの丁寧な保育の実施。当園の保育方針への柔軟性。職員同士の連携ができ、互いに苦手な分野を補いながら助け合って仕事ができるようになって欲しい。また、常に向上心を持って仕事に取り組む。報告、連絡、相談がしっかりとできる職員になって欲しい。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>丁寧な保育を実施することで、愛着関係をしっかりと築き、子どもが安定して生活できる環境を作る。そこから子どもの自己肯定感を育てる。また、大切な命を預かっているという責任感。生まれて間もない子どもから、成長著しい時期の子どもたちを預かっている、その人格形成を担っている事を意識して仕事をして欲しい。そして、保護者対応では保護者の気持ちに寄り添い、丁寧に関わって欲しい。</p>

調査対象	保育園に通っている園児16世帯19人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。		
利用者総数	19		
利用者家族総数(世帯)	16		
共通評価項目による調査対象者数	16		
共通評価項目による調査の有効回答者数	13		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	81.3		

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」61.5%、「満足」30.8%の計92.3%であった。自由意見では、「子ども一人一人と、とても丁寧に向き合ってくれていて、日々の過ごし方が送り迎えの時の子どもの反応で良くわかります。」「毎日子どもの様子をノートに書いてくれたり、それを帰りの時にも教えてくれたりするので、見て頂いていると安心します。」「在園児に合わせた手作り給食。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が多く寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「不満や要望の対応」などの17問中13問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	1	0
「はい」の回答は92.3%、「いいえ」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「保育園に通うようになり、出来るようになったことが増えました」「興味を示す範囲がとても広がっていて、出来ることが増え、日々驚かされます」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	2	0	0
「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は15.4%であった。 自由意見では、「毎日お散歩に行って、家でできないダンスや遊びをしていただいていると感謝しています」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	2	0	0
「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は15.4%であった。 自由意見では、「毎日完食しています」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	0	1	0
「はい」の回答は92.3%、「いいえ」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「花や猫など、動物にも興味を持ってくれるようになりました」という声が寄せられている一方、「外遊びの時間が少し少ないように感じます」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	3	1	0
「はい」の回答は69.2%、「どちらともいえない」の回答は23.1%、「いいえ」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「少人数で目も行き届いていると思います」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「土曜日開催なのでとても助かります」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「送り迎えの際、直接たくさん伝えてくれるので相談しやすいです」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「まだ大きなけがや体調不良の経験はないですが、日々の細かい傷などを説明してくれています」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	4	0	1
「はい」の回答は61.5%、「どちらともいえない」の回答は30.8%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「子どもが好きなことなど、しっかり見て把握して下さっています」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	3	0	0
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は23.1%であった。 自由意見では、「いつも連絡帳を拝読するのを楽しみにしています」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	1	1	0
「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「いいえ」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	2	3	1
「はい」の回答は53.8%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「いいえ」の回答は23.1%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ-1の講評			
<p>園の情報はホームページやFacebookに設置されている</p> <p>入園または見学を希望する保護者への情報の提供については、ホームページやFacebookから入手できる。来園者には「入園ガイド」を配布しているほか、在宅子育て家庭に離乳食試食会やおはなし会、いっしょにあそぼう会の情報を案内している。地域へ向けは、FacebookやInstagramで日々の保育の様子などをみてもらえる形となる。SNSの掲載は月に1~2回行っている。園長や主任が各クラスの姿や行事の投稿を行っている。</p> <p>わかりやすい情報の提供や外国籍の保護者へ外国語版を用意するなどの配慮が見られる</p> <p>利用希望者などの特性(外国籍など)を考慮して提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにするために、入園のしおりには、別途、持ち物の写真を用意し、写真をもとに説明や補足を行っている。また、イベントチラシには園の様子の写真を掲載し分かりやすくしている。外国籍の家庭へは持ち物の写真だけでなく、英語表記の入園のしおりの作成に期待したい。また、入園が決まった際は、北区の通訳職員と同席をお願いする事ができるので、園としても十分な資料の提供の準備が望まれる。</p> <p>見学はできる限り受け入れ、0~2歳児園であることや子育て支援情報を伝えている</p> <p>見学の問い合わせについては、希望日時と園の状況を考慮したうえで可能な限り対応している。見学者の対応は主に園長や主任が行い、新型コロナウイルス感染症対策により、園の玄関から室内を見て頂く形式で行っている。見学者の子どもの月齢や保護者のニーズに合わせてイベントを紹介し、実際に保育所体験が行える機会を提供している。イベントは感染症対策を行った上で実施している。園の特徴として2歳児までの保育園であることやその後の転園状況を伝えている。園で実施している離乳食試食会やいっしょにあそぼう会などの在宅子育て支援の案内も行っている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面接会を実施し、説明後は理解した旨の承認の署名をもらっている</p> <p>サービスの開始にあたり、基本的ルールなどを保護者の状況に応じて説明するために、個人面談や入園説明を実施している。面談担当者は「新入園児面接について」を参照し、事前に記入してもらった緊急連絡表や入園までの生活状況、児童票などの確認と、聞き取った内容を記録している。入園説明会では園長が入園のしおりに沿って、園の基本ルールなどについて説明している。</p> <p>保護者や子どもの状況に合わせて無理なく保育園に慣れていけるように配慮している</p> <p>入園直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、入園面接時に徐々に保育時間を長くする慣らし保育について説明し、保護者の就労状況や集団保育の有無などを把握して、無理なく園生活に慣れていけるように個々の状況にあわせて実施している。家庭で遊び慣れたおしゃぶりやタオルなどの預かりもしている。入園当初はできるだけ同じ職員が担当し、少人数でゆったりと過ごせるように配慮している。慣らし日程表には、保育時間が徐々に長くなるに連れて、日々の持ち物も必要になってくるため、持ち物の説明や保育士からも日々声掛けを行っている。</p> <p>転園後も子育て相談に応じることを伝え、不安が軽減されるように配慮している</p> <p>サービスの終了時に、子どもや保護者の不安を軽減して支援の継続性に配慮した支援を行うために、退園、転園する子どもに対しては、写真、メッセージ入りのカードをプレゼントしている。2歳児クラスで保育サービスが終了となるため、転園先の保育園との連携については、今後も必要に応じて密な体制を考えている。連携園が決まっていない状況とこのため連携先の検討に期待したい。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	
サブカテゴリー3の講評		
<p> 子どもの指導計画は全体的な計画をもとに作成し、月末や期末に見直しをしている 子どもの成長発達に応じた年間指導計画は全体的な計画の各領域をもとに、それぞれの計画を作成している。具体的な保育活動については期、月、週の案の中で表現されている。保護者からの意向や要望は、個別指導計画の確認や個人面談、日々の会話の中で把握し、計画作成時に反映している。指導計画は月末や期末に、主任と担任がクラス会議を持ち、子どもの姿や保護者の意見などを考慮して見直しをしている。緊急に計画の変更を要する事案が発生した時は、職員を召集して検討・変更している。 </p> <p> 子どもの発達の姿や目標をわかりやすく伝え、子育てに繋ぐしくみの検討に期待する 0～2歳児は個別に月間指導計画を作成している。保育のねらいや取り組みについて保護者の共通理解を深めるために、個人面談や保護者会で園のねらいや取り組み内容の説明を行っている。家庭と園での子どもの様子を遣り取りする連絡帳を活用し、保護者との連携を図っている。月間指導計画に子ども一人一人の個別目標を立てている。一人一人の子どもの育ちを大切に保護者へ子どもの発達の姿や目標をわかりやすく伝え、子育ての観点を共有しながら、園と家庭が子育てに繋ぐしくみの検討に期待する。 </p> <p> 計画や子どもと保護者の情報などは職員会議や朝礼で報告し、全職員で共有している 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する全職員が共有しながら活用するために、職員会議、栄養士会議は月に1回行っている。ミーティングは緊急の連絡がある際に不定期に行っている。全職員の参加は難しいため、クラス内の情報共有と議事録を全職員に回覧している。子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を共有するために、伝言ボードを用いて子どもたちの体調やけが、家庭での情報を記入することで、伝達漏れを防ぎ、担任以外の職員も内容を把握し、どの職員でも保護者対応が行える仕組みにしている。 </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>おむつ交換時や着替えなど、子どものプライバシーを守るために適切な配慮をしている</p> <p>職員は個人情報保護に関する誓約書に署名、捺印し、誓約書に則っている。個人情報を提供する場合は本部役員、園長と協議し決定する。その後、保護者の同意を得ている。おむつ替え、着替えの際は特定の場所で行い、子どもの体が見えないよう羞恥心に配慮している。また、職員研修では子どもにも人権があること、名前を出して怒らないなども伝えている。新年度研修では、子どもにも自尊心があり、毎回名前を出して注意するのではなく、保育士がそばに行き話しかけていく事を伝えている。</p> <p>子どもにとってより良い環境の提供をしている</p> <p>丁寧な保育を行うと共に、集団生活の中でも子ども一人一人の言葉を拾い、受け答えをしている。入園面接や入園までの生活状況を把握した上で、保育にあたっては。家庭状況の入園面接時の聞き取りや毎日の会話、連絡帳から把握するなど、家庭から無理なく連続性を持たせた生活ができるよう配慮している。基本的な生活習慣の大切さなどは、日々の連絡帳や園だより、保健だよりで伝えている。今までの子どもたちの姿を受け止め、子どもにとってより良い環境の提供をしている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアルや手引書を整備し、業務の標準化を図るための取り組みをしている</p> <p>「感染症対応マニュアル」「緊急対応マニュアル」「新年度研修資料」などの日常必要なマニュアル類は、すべての職員が確認し、活用している。新年度に各種マニュアルの確認を行い、課題があった場合は、速やかに分析して必要に応じて見直しをする体制をとっている。職員は、分からないことが起きた場合や手順に疑問が生じたときなどマニュアルを活用して基本事項を確認している。</p> <p>サービス向上のために基本事項や手順は保護者や職員の要望、意見により見直している</p> <p>提供しているサービスの基本事項や手順は期ごとに確認し、年間反省で見直しを行っている。また、問題が起きた場合は速やかに職員会議を開き、検証や見直しを行う体制をとっている。職員や保護者からの提案は、速やかに検討し、結果を反映している。保護者からは懇談会やアンケートなどで意見や提案を得ている。屋外安全チェックリスト、自主検査表にて毎日確認や水遊びの進め方、嘔吐処理、子どものけがなどへの対応は、職員研修にて手順の再確認を行っている。その年により子どもや職員の変化もあるため、毎年見直しを行っている。</p> <p>さまざまな取り組みにより、コロナ対策を確保している</p> <p>運営委員会が出た意見など年度内でも変更できる内容については柔軟に対応。新型コロナウイルス感染防止策は迅速に行った。昨年4月に出た緊急事態宣言時には休園状態になったが、その間に園内の環境や出入りについて、細かくまとめた。以前保護者は毎日、室内に入室していたが、今では玄関までの入室になった事など書面にして保護者に配布し理解して頂いた。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>子ども一人一人の全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</p> <p>子ども一人一人の発達や成長した点などは、個人記録や個人月案に記載している。保護者との日々のやり取りや連絡帳、伝言ボードに目を通し、その日の体調などに合わせて保育を行っている。特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、他の子どもと同じ環境のもとで生活することを基本として保育をしている。臨床心理士の巡回時には、保育の内容や援助が適切であるかを確認したり、助言を受けたりしている。保護者と連携して子どもの成功体験を重ね、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している。</p> <p>子どもが主体的にまわりに興味や関心をもち、集中して遊べる環境設定をしている</p> <p>子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、遊びのコーナーやゾーン設定など、子ども一人一人が集中して遊べる環境を設定している。また、おもちゃの扱い方、面白さを保育士が子どもに関わりながら伝えていくことを重要と捉えて取り組んでいる。戸外活動では、子どもが目にしたもの、声に出したことをしっかりと受け取り子ども自らが興味・関心をもち、五感を使って季節の変化などを感じられるように援助している。</p> <p>子ども同士のトラブルに対し、子どもの気持ちを尊重した対応に努めている</p> <p>年度当初の職員研修では、子どものトラブル対応について周知していると共に、実際に起きてしまったトラブルの際に職員に対応の仕方を丁寧に伝えている。噛みつきは、子どもではなく園として防げなかった事をしっかりと職員が理解し、保護者に伝えている。子どもが生活して行く中で、保育士は必ず双方の子どもの気持ちを代弁して気持ちを受け止め、伝えている。保育士は、否定語は使わず、優しく丁寧な言葉で接することに努めている。そしてたくさん笑って楽しい体験をし、会話のできない時期の子どもたちとのやり取りを大切にしている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	

評価項目2の講評

登園時には家庭での子どもの様子を保護者に確認し、降園時には園での様子を伝えている

登園時は、子どもの視診を行うとともに保護者に子どもの体調面や家庭での様子などを聞いている。週明けには休み中の様子も伺い、食事や午睡時間の配慮などにもつなげている。聞き取った内容は、伝言ボードに記載し全職員が把握するしくみになっている。降園時には保護者に連絡帳及び口頭で園での子どもの様子を伝えている。特に、発疹や傷などは時間帯、内容を伝えて病院受診や家庭での様子観察をお願いしている。病院受診の目安などについては、保健だよりで伝えていく事で受診後のやり取りがスムーズに行えるよう取り組んでいる。

基本的な生活習慣の獲得に向け、個々の発達の状態に応じて家庭と連携して取り組んでいる

子どもの発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう、例えば食事形態は、離乳食から幼児食まで、子どもの歯の生え方、咀嚼力を家庭の様子も踏まえて決めている。また、完食することを目的とせず、楽しく食事する事を大切にしている。トイレトレーニングについても家庭と連携し子どもの成長に合わせて個々に開始している。基本的な生活習慣の獲得に向けては、強制はせず、子どものやる気を引き出せる言葉がけを大切に行い、子どもがやる気を見せた時、できた時は大いに褒めて自信につなげている。

休息の長さや時間帯は、子ども一人一人の状況に配慮している

保育内容は、一人一人の子どもの状況、クラス全体を見て散歩先を変更したり、合同で散歩に出たりと、配慮している。休息についても、例えば0歳児は、保護者から確認したその日の起床時間などを考慮し、午前睡を取るなど配慮している。子どものその日の姿に合わせて、ゆったりと活動する場面やしっかりと午睡ができる環境を整えて保育している。咳、鼻水により食事や午睡に支障がでる際は呼吸のしやすい態勢にし、子どもに負担のないようにするなど、小規模園の強みを生かし、子ども一人一人の状況に配慮している。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている 0歳児は様々な素材の物、指先を使う玩具など十分な数用意をし、保育士が子ども一人一人に寄り添い、集中して遊べる環境を整えている。1・2歳児は子どもの目線から見やすい位置に棚を設置し、棚や玩具を入れるかごには写真を付け、子どもが好きな玩具を選び、取り出したり片づけたりしやすいように工夫している。遊びのゾーンを設定し、車や電車、ブロックなど遊ぶ場所を分けて子どもが目の前の玩具で集中して遊べる環境を作っている。玩具は子どもの発達や興味・関心に合わせて入れ替えを行い、保育士の手作り玩具も多く取り入れている。</p> <p>様々な表現遊びを通して、子どもの言葉に対する感覚や楽しむ気持ちを育てている 子どもの言葉の発達を育むために「オノマトペ」や「セルフトーク」についての研修を行い、日々の保育に生かしている。言葉が分からない年齢の子どもに対しても、子どもの気持ちの代弁を大切にしている。表現遊びとして、月の歌も1年を通して決めており、朝の会や日常で歌に触れている。わらべうたでは、ことば遊びや発語への興味につなげている。季節や月の制作では、子どもの年齢に合わせ、絵の具やのりなど色々な感触を味わえるように工夫している。子どもが発した言葉、感じたことに丁寧に答えて、言葉と動作が一致できるように取り組んでいる。</p> <p>季節の移り変わりなどを感じることや自分の気持ちを調整する力を育てている 戸外活動では、年齢や目的によって公園を選んでいく。公園や道中に咲いている花を立ち止まって見たり、色や形の変化を伝えたりしている。寒い時期には口から吐く息が白いなど、その季節の中で感じられる一つひとつを伝え、子どもが季節の移り変わりなどを感じとることができるように支援している。生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付くよう、例えば玩具の扱い方は月齢に合わせて言葉を選び、前向きな言葉がけに努めている。次の活動の楽しさを伝えて、期待を持って片付けを行うことや気持ちの切り替えができるように支援している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持って取り組めるよう工夫している</p> <p>七夕集会やクリスマス会、節分、ひな祭りなどの行事集会では、子どもたちが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう計画を立て、低月齢児でも理解しやすい簡単な内容にして取り組んでいる。集会の前には、制作を行ったり、関連する絵本を読んだりしてその行事に親しみが持てるように工夫している。1・2歳児のクリスマス会では、クラスごとに楽器遊びや歌をうたっている。練習も無理なく、日々の遊びの中で行うことで楽しく取り組んでおり、クラスの友だちや担任がいることで人前に立ち、自信を持ってやり遂げる姿がみられている。</p> <p>保護者には入園・進級時に年間行事予定を配布して、行事内容を説明している</p> <p>子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり保護者には入園・進級時に年間行事予定を配布して、園児と職員で行う行事、保護者が参加する行事を説明している。家庭では取り組むことが難しいことも取り入れ、夏祭りの手作りプラネタリウムは保護者のリフレッシュも目的として行っている。保護者参加の行事後にはアンケートを配布し、その行事についての意見をきき、次の行事に生かしている。コロナ禍では、保護者参加行事は感染症対策を行い、1回の入場人数を制限するなど工夫して行っている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</p> <p>朝の開園から8時30分まで、夕方の17時からは合同保育を行い、他クラスの子どもと過ごすことで少人数にならず寂しい気持ちにならないように過ごしている。異年齢が関わることで安全な玩具を提供している。また、職員はシフト制のため、担任以外が子どもの保育を行うことにより、全職員が職員会議などで子どもの情報を把握し、毎日の伝言ボードで申し送りを行っている。子どもたちが人見知りすることなく安心して気持ちで過ごせるよう配慮している。</p> <p>保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</p> <p>日中のクラス保育から、朝・夕の合同保育時間と保育形態の変化がある場合でも、玩具の選別や職員の配置など、子どもが安心して楽しく過ごせるように配慮している。他のクラスのお友だちと過ごしたり、担任以外の保育士と触れ合って遊んだり、日中とはちがう玩具で遊んだり、保育時間が長くなる中で、子どもが安心して過ごせるよう子ども一人一人に寄り添った保育に努めている。現在は、常時延長保育を利用する家庭はないが、必要な場合には実施できる体制を整えている。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りや献立の工夫をしている</p> <p>給食前には、子どもたちに献立を伝えて食事に向け期待を持って過ごせるよう配慮している。適度な会話をしながら、さりげない援助、声掛けをして、ゆったりとした空間を提供している。献立は毎月、管理栄養士が作成しており、食育計画をもとに、毎月の旬の食材を利用し子どもが食べやすい形態で提供している。味付けやメニューが毎日、同じようなものになっていないか、家庭でも摂取しやすい、調理しやすい食材を取り入れているかなど、栄養士と園長で確認している。また、毎月栄養士会議を実施し各クラスの喫食状況などを把握して献立に生かしている。</p> <p>子どもの体調や食物アレルギーなどに応じた食事を提供している</p> <p>食事形態・アレルギー確認表は毎月作成し、栄養士、担任、主任、園長が確認している。また、未摂取食材も記入している。アレルギーのある子どもに対しては、医師からの生活管理指導を提出してもらい、その指示に従って提供している。配膳時も誤配・誤食がないように保育士と栄養士で確認表を用いてチェックし、サインをしてから受け渡しを行っている。食事の時間は、栄養士が各クラスを巡回し、子どもの食べている姿、食べ方、形状が合っているかを見て回り把握している。</p> <p>食材に触れるだけでも「食育」である、という考えのもと食育活動を行っている</p> <p>食材に触れるだけでも「食育」である、という考えのもと食育活動を行っている。毎月旬の食材に触れる機会を持ち、その導入として食材に関する写真や絵本を用意し、子どもに分かりやすく説明している。2歳児までの園として、食育の土台作りを行えるように、日々の遊び、特におままごと遊びに対して、丁寧に関わっている。子どもが苦手な食材があった場合、保育士の励ましや声掛け、援助でその食材に興味を示し、味を確かめたり、1口でも食べられたりするように支援している。年度末には食べられる食材、量が増える子どもの姿も見られている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</p> <p>子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように、危険な場面では、こうしたらどうなるなどを簡潔に子どもに伝えて、意識しながら遊べるように配慮している。また、鼻水や咳が出ている時には、「鼻水がでていときもちわるいね」「鼻をかんでみようか」「鼻をかんだらすっきりして気持ちいいね」など、不快な気持ちを代弁したり、清潔になって気持ちがいいことを伝えたりしている。事故防止については、ヒヤリハット報告書を作成し日々の危機管理を行っている。</p> <p>子ども一人一人の健康維持に向け、家庭と連携しながら取り組んでいる</p> <p>乳幼児突然死症候群(SIDS)については、入園面接の際に入園のしおりをもとに園ではうつぶせ寝をしないことを伝え、家庭でもうつぶせ寝の習慣をつけないよう協力を仰いでいる。0歳児は5分に1回、1・2歳児は10分に1回の午睡チェックを行い、室内も子どもの表情がしっかりと確認できる明るさを保っている。また、保健日よりでは病後の子どもたちの体調に留意し無理のない登園をお願いしたり、乳児期に多い病気の紹介をしたりしている。感染症が出た場合は感染症情報を掲示すると共に口頭でも伝え、体調の変化に早く気付くよう配慮している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p>保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮した支援に努めている</p> <p>保護者の子育てや就労等の個々の事情に配慮するために、仕事状況や家庭環境を把握し、保護者と話し合い保育時間を決めている。要望などがあった場合は園として対応できること、できないことを伝え、対応できる内容については柔軟な対応に努めている。保護者同士が交流できる機会として、保護者会では、例えば子育ての悩みについての相談は、自分だけじゃなかったり、新たな発見などがうまれたりすることなど、共通の話題やテーマを取り上げ、保護者同士が気軽に話ができる内容や雰囲気を作っている。</p> <p>子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取組を行っている</p> <p>保護者会では園生活の見通しがもてるよう、子どもの発達の姿や成長過程でみられる姿などの説明をしている。また、園と保護者が一緒に子どもの成長を見守り、協力してくことの大切さも伝えている。保育参加は、1日に1名保護者が来園し、子どものクラスに入り一緒に過ごすことで、他児の成長を見たり、集団のなかでの自身の子ども姿を見たりする機会としている。そこからの自身の子育ての気づきを一緒に考え、家庭での育児に役立てられるような場として取り組んでおり、保護者と職員の信頼関係の構築にもつなげている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を設けている</p> <p>天気のよい日は散歩に出かけ、近隣住民や商店街など、地域の人とあいさつを交わし、交流を重ねている。地域との交流は、「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」の理念のもと地域に園の存在を知ってもらい、子どもの成長と一緒に見守ってもらう存在として大切に取り組んでいる。また、地域子育て支援として地域の親子を誕生会や行事に参加してもらい、同じ年齢の子どもたちと関わる場所としている。園の前に掲示板を設置して案内を掲示したり、Facebookでお知らせしたりしている。</p> <p>世代間交流など、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</p> <p>例年、高齢者福祉施設に行き、高齢者と交流する機会を設けている。交流の際には、歌を披露したり、一緒に歌ったり、握手などのスキンシップも行っている。2020年度からはコロナ禍による感染症防止のため、施設訪問はせず子どもたちがプレゼントの制作をしている姿や歌をうたっている姿をまとめた「ビデオレター」を作成し、施設に送っている。相手先からはお礼の制作が届いており、お互いに喜ぶ姿がみられている。コロナ禍でも工夫して交流を続けており高く評価できる。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇●●)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
未実施	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
未実施	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>園の社会的透明性の強化のために、苦情解決システムのより一層の周知が求められる</p> <p>苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることは、利用契約書に明記するとともに、玄関にも苦情要綱を置いている。利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みとして、担任では解決できない問題はすぐに、園長に報告している。苦情相談窓口を通した場合は会社として本部と協議し解決策を決めている。苦情解決第三者委員制度については、保護者アンケートで知らないと答えている方が複数人いたため、開示請求の説明と併せて、保護者説明のより一層の充実に期待したい。</p> <p>職員は年に1回、自己評価を行って人権意識を高めている</p> <p>職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策として、職員は年に1回、自己評価を行い、振り返りを行っている。日々の言葉使いも研修で周知し、職員の言動において気になる点がある場合はクラス会議や個人面談時に伝えている。朝の受け入れ時、着替えの際には子どもの身体チェックを行っている。虐待などの疑いがある場合は、北区子ども家庭支援センターに連絡を入れることにしている。</p> <p>リスクの特定やリスクをマネジメントするという視点で取り組んでほしい</p> <p>園内でのリスクについては大規模な地震を優先順位の高いリスクとして訓練等において準備を行っている。また、事故予防として、ヒヤリハットの提出や事故報告書の作成、再発防止策についての検証が行われている。一方、ヒヤリハットはあまりあがっていない状況にあるため、様々な要因があることを想定して「子どもに対する事故予防」だけでなく、リスクマネジメントという視点で、検証できるように事業継続計画の策定に取り組むことが期待される。また、災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備えた事業継続計画(BCP)の策定に期待したい。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	堆肥を作り、花を育て、子どもたちが心豊かに過ごせる環境を作っている	
内容①	<p>「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」という理念のもとに、野菜クズや展示食を再利用し、コンポストを使って堆肥作りを行っている。この堆肥を使って、園の入り口となるエントランスにプランターを置き、花を育てている。四季を通して花を育てることで子どもたちが自然に触れ、そこに集まる虫の観察や草花を使った遊びなど心豊かに過ごせる環境を作っている。子どもたちのエコ環境への関心や自然に対する興味・関心が育まれている。</p>	

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」の理念のもと地域交流を大切にしている
	内容	地域との交流は、「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」の理念のもと地域に園の存在を知ってもらい、子どもの成長と一緒に見守ってもらう存在として大切に取り組んでいる。地域の子育て家庭への支援も積極的に取り組み、園への行事への参加や育児相談のイベントなども行っている。高齢者福祉施設との交流は世代間の交流にもなっており、コロナ禍においてもアイデアを出し、ビデオレターを作って送るなど工夫している。近隣との関係を友好的に築き、地域・利用者・園児・職員が共に育ち合える場として取り組んでいる。
2	タイトル	利用者が安心して契約開始が始められ、3歳児転園まで丁寧な関わりを行っている
	内容	利用希望者が興味を持てるよう、すぐに園の様子を感じられるSNSや検索し易くするQRコード等を用いて案内され、見学者の新型コロナウイルス感染症対策として、玄関から室内を見て頂く形式とした。見学者にはイベントの紹介や保育所体験の機会を案内している。入園初日から子どもや保護者の不安を軽減するために、1～2週間程度の慣らし保育を設定している。中途退園や転園時には、写真、メッセージ入りのカードを贈呈している。特にトイレトレーニングや着替えなどは転園先の園の決まりなどの情報を聞き、そこに合わせていけるよう配慮している。
No.		今後の課題と思われる点
1	タイトル	コンプライアンスや法、規範、倫理面の保護者への分かりやすい説明についてはさらなる検討・推進に期待したい
	内容	透明性の高い園運営の下、コンプライアンスや保護者とのコミュニケーションが円滑に行われているが、組織面の保護者への分かりやすい説明の面では若干の課題も見られた。保護者からの苦情に対応する窓口の一つでもある苦情解決第三者委員制度については、保護者アンケートで知らないと答えている方が複数人いた。職員の保護者理解度とは隔たりがあった。また、個人情報保護の保護者説明の面で「重要事項説明書」で利用目的が説明され、同意書も得ているものの、開示請求の説明は十分とは言えないので、保護者説明の一層の充実を期待したい。
2	タイトル	子どもの成長に合わせて、丁寧な保育を実施し、愛着形成のもと一人一人を大切にする保育の充実に向け、今後も推し進めて欲しい
	内容	小規模保育園というメリットを生かし、子どもたちの個々の成長に合わせた丁寧な保育を展開している。保育の中では否定語は使わず、優しく丁寧な言葉で接することや子どもとの愛着関係を築き上げ、子どもが安心して園で生活することで、自己肯定感が育まれていくことを園内研修などで繰り返し職員に伝えている。この時期の子どもたちには言葉のシャワーをたくさん浴びてもらうため、保育士も子どもと関わる上で、子どもの気持ちを代弁し、オノマトペを意識している。愛着形成のもと一人一人を大切にする保育の充実に向け、今後も推し進めて欲しい。